

## 年齢層に応じた交通安全教育の内容について

### ○ 未就学児、小学生、中学生及び高校生に対する交通安全教育

項目	1 道路の歩行と横断	2 自転車の安全な利用	3 二輪車・自動車の特性と心得	4 交通事故防止
目標	道路の役割・きまりや道路における様々な危険について理解し、安全な歩行ができるようにする。	自転車の安全な利用・点検や整備について理解を深め、交通のきまり・約束等を守って安全な乗車ができるようにする。	二輪車・自動車の特性について理解し、道路の安全な歩行や安全な走行ができるようにする。	地域の交通安全に関する諸機関や団体が行っている対策や活動を理解し、安全な交通社会を築くために、積極的に参加できるようにする。
年齢層				
未就学児	①基本的な心構え（道路の端・右側を歩く・安全確認の仕方、手を挙げて横断する等） ②危険な行動（飛び出し、路上での遊び） ③標識・標示の理解（止まれ、横断歩道等） ④信号の見方、点滅時の判断の仕方、信号機のない道路での横断の仕方	①一人で自転車に乗るときの約束（決められた場で乗る、保護者の付き添い、ヘルメット着用等） ②補助いすの安全な乗り降りの仕方	①自動車の特性を知る（死角、内輪差・外輪差、制動距離等） ②飛び出し、車両直前直後の横断の危険と安全確認 ③運転操作の支障となる行動と安全な態度 ④チャイルドシートの着用、後部座席に乗車する場合の安全に関する約束	①交通事故が起きたときの行動（現場に居合わせた人に助けを求める、保護者、警察等に知らせる） ②自分たちの交通安全のために活動してくれる人への理解と感謝
小学生 1・2年	①通学路の安全な歩行の仕方 ②運転者への合図の仕方 ③雨や雪の日の安全な歩行の仕方	①体に合った自転車と安全な練習場所及びヘルメット着用 ②自転車に乗ってよい場所 ③自転車乗車中に起こる事故 ④自転車に關係する規則	①車両の事故の特徴と安全な行動の仕方 ②死角と内輪差・外輪差 ③シートベルトの着用 ④夕方や夜間の運転者からの見え方と安全な行動の仕方	①交通安全にかかわる人々と施設の利用の仕方 ②地域の救急施設や救急体制 ③家庭での交通安全
小学生 3・4年	①通学路やスクールゾーンの意味と危険防止 ②信号を守るの意味と交差点の安全な横断の仕方 ③道路の凍結、強風時の安全な行動の仕方	①自転車の正しい乗り方と乗ってはいけない場合及びヘルメット着用 ②自転車の通る所と安全な走行の仕方（並進の危険性） ③加害事故及び自損事故の状況・原因と事故防止 ④自転車の各部の名称と働き及び点検と手入れ ⑤自転車に關係のある道路標識と道路標示	①車両の事故の特徴と安全な行動の仕方 ②自動車の種類による死角と内輪差・外輪差 ③シートベルトの着用とその効果 ④悪天候や夜間での車両の動きの特徴と安全な行動の仕方	①交通安全に関する機関や団体の仕組みと施設の利用の仕方 ②交通事故が起きたときの通報の仕方 ③学校での交通安全
小学生 5・6年	①通学路の交通事情と下級生のお話 ②交差点での右左折車の危険と安全な横断の仕方 ③薄暮や夜間の安全な歩行の仕方（明るい服装や反射材の効果）	①歩行者及び他の車両に対する事故、ヘルメットの効果と着用 ②交差点の通行の仕方と雨天や夜間の安全な走行の仕方 ③加害事故の責任と補償 ④定期的・乗車前の点検の仕方 ⑤自転車に關係する基本的な交通法規（自転車安全利用5則の徹底）	①車両の車種による事故の特徴と安全な行動の仕方 ②自動車の速度と停止距離 ③シートベルトの着用とその効果 ④雨や雪の制動距離の違いと安全な行動の仕方	①地域の交通安全活動の理解と参加 ②交通事故が起きたときの対応の仕方 ③地域の交通安全と小学生の責任と役割
中学生	①通学路やスクールゾーンの設置の意味 ②道路条件や交通環境の変化に応じた安全な通学の仕方 ③車両の動きと安全確認 ④交差点を横断するときの危険の予測と安全確認の仕方 ⑤集団心理などによる集団歩行時の交通の危険 ⑥道路事情による危険と安全な歩行、横断の仕方 ⑦幼児、児童、高齢者や身体に障害のある人々の行動の特性の理解と保護及び介助	①中学生に多い自転車事故の特徴 ②自転車の安全な利用の仕方 ③自転車専用道路、車道、歩道通行可等の通行区分 ④道路条件や交通環境に応じた安全な走行の仕方 ⑤自転車事故の状況・原因と事故防止（反射材の効果等） ⑥事故の発生とその対応 ⑦加害事故の責任と補償制度 ⑧自転車の各部の名称と働き、及び点検内容・点検の仕方 ⑨自転車に関する交通法規、道路標識と道路標示等の理解（自転車安全利用5則の徹底）	①二輪車と自動車の事故の特徴と安全な行動の仕方 ②自動車の種類による死角・内輪差・外輪差 ③自動車の速度と停止距離及び前照灯の照射距離 ④交通事故が発生した場合の被害軽減効果 ⑤雨や雪の日の自動車の停止距離 ⑥夕方や夜間の自動車の危険（視認距離の低下、眩惑現象、蒸発現象）及び安全な行動の仕方 ⑦運転免許制度の意義・種類・内容・取得年齢、及び運転者の義務、責任と補償	①国や地方公共団体の仕組みと施策 ②地域の関係機関や関係団体の仕組みと活動 地域の交通安全活動への中学生としての参加の在り方 ③地域の救急施設、救急体制の理解 ④交通事故が起きたときの応急手当と措置 ⑤交通安全活動における自分たちの責任と役割
高校生	①道路の種類とその役割、標識・標示の種類と意味の理解 ②通学時の事故の現状の理解と安全な行動 ③交差点の危険性の理解と安全な行動の仕方 ④気象や環境の変化によって発生する事故現状の理解と安全な行動 ⑤幼児、児童、高齢者や身体に障害のある人々の行動の特性の理解と保護及び介助	①自転車事故の現状とその原因の理解と安全な乗り方 ②歩行者保護の立場に立った安全な走行の仕方 ③自転車通行区分や合図の仕方 ④雨天などの気象の変化や夜間などの危険と安全な走行 ⑤自転車利用者としての義務と責任の理解と安全な走行、及び事故の責任と補償 ⑥自転車の性能の理解と各部の名称及び点検・整備の仕方 ⑦自転車の関係法規の理解（自転車安全利用5則の徹底）	①二輪車と四輪車の特性、及び事故現状とその原因 ②危険予測と回避する意識と能力 ③自動車の種類による死角・内輪差・外輪差 ④自動車の速度と停止距離及び前照灯の照射距離 ⑤交通事故が発生した場合の被害軽減効果（ヘルメット・シートベルト・エアバッグ） ⑥夕方や夜間における視認能力の低下、及び気象の変化による交通状況の変化 ⑦運転免許制度、及び運転者の義務・責任と補償	①国や地方公共団体の仕組みと施策、及び地域の交通安全活動の理解と高校生の役割 ②地域の交通安全活動の積極的参加 ③地域の救急施設と救急体制、及び交通事故での応急手当と措置 ④安全な交通社会づくりの重要性と高校生の役割 ⑤交通社会の一員としての高校生の責任と役割

### ○ 大学生等、成人に対する交通安全教育

項目	1 運転に関する基本的事項の教育	2 危険の予測と回避	3 状況に応じた運転能力の向上	4 安全運転に必要な科学的知識の習得	5 運転適性指導及び運転技能指導	6 歩行者等に対する交通安全教育
【目的】	自動車教習所において、免許取得時に自動車等の運転に関する基本的な交通安全教育が行われるが、初心運転者については、正しい運転の技能及び知識が定着しているとは限らない。また、それ以外の運転者についても、自動車教習所で習得した技能及び知識から逸脱した運転方法が身に付いてしまうことがある。このため、運転者に安全運転に必要な技能及び知識の理解を深めさせるとともに、交通社会の一員として自己の安全のみならず、他者及び社会の安全に自主的に貢献することができる運転者へと育成することを目的とする。					
目標	自動車を安全に運転するために必要な基本的事項を再確認し、技能及び知識の定着を図るようとする。	道路における危険を予測し、危険回避する意識及び能力を向上させる。また、歩行者・自転車の利用者・二輪車の運転者等の特性を理解できるようにする。	夜間の運転、雨、雪、霧等の悪天候時の運転、高速道路での運転等様々な状況下における運転に必要な能力を向上させるようにする。	自動車等を安全に運転するために必要な科学的知識について、理解を深めるようにする。	運転者に運転適性及び運転技能を客観的に把握させるとともに、運転適性の類型ごとに特徴的な交通事故について理解させ、運転態度及び技能の改善を図るようとする。	道路を通行する一人一人が交通ルールを守り、交通マナーを実践する必要があることを再確認させる。また、免許取得者は、自動車等を運転する場合に歩行者等の特性を踏まえて安全に運転ができるようにする。
内容	①自動車の点検 ②シートベルトの着用及びチャイルドシートの使用 ③交通事故及び故障の場合の措置 ④交通事故の発生状況等の情報提供	①具体的な場面を設定して行う危険の予測と回避 ②道路を通行する歩行者、自転車の利用者、二輪車の運転者等の特性（交差点における右左折時の事故、交差点における出会い頭の事故等） ③急ブレーキ	①夜間の運転（夜間における道路及び交通の状況、蒸発現象、眩惑） ②雨天時、雪道、霧の場合、高速道路での運転（制動性、サイドブレーキ現象、十分な車間距離の確保等）	①運転者の性格と運転の関係 ②人間の生理と運転との関係（錯覚等の視覚の特性、飲酒等の身体機能への影響等） ③自動車に働く自然の力（摩擦力、遠心力等） ④交通事故の発生原因等（交通事故事例による原因、交通事故防止施策の説明）	①運転適性指導（運転適性検査機材を使用） ②運転技能指導（道路又は道路外のコースを走行、運転シミュレーターを使用）	①歩行者の心得（反射材の効果、幼児・児童・高齢者・目の見えない人及び身体の不自由な人の保護） ②自転車利用者の心得（歩道、路側帯等を通行する場合の歩行者に対する配慮、交通事故により生じた損害を賠償するための保険等への加入の必要性） ③自動車等に関して知っておくべき事項（自動車等の特性及び合図等）

### ○ 高齢者に対する交通安全教育

項目	1 道路の歩行と横断	2 自転車の安全な利用	3 自動車等の特性と心得	4 家族等の理解と協力
【目的】	高齢者は、加齢に伴い身体機能が変化し、道路を安全に通行する行動ができない場合がある。また、免許を受けておらず、交通安全教育の経験がない高齢者も多い。このため、加齢による身体機能の変化が道路における運転行動に及ぼす影響を理解させるとともに、交通ルールを守り、交通マナーを実践することの必要性について理解を深め、安全に道路を通行することができるようにすることを目的とする。			
目標	加齢に伴う身体機能の変化を踏まえ、体力等に応じて道路を通行するなど、歩行者として安全に道路を通行するために必要な事項を理解できるようにする。	加齢による身体機能の変化が自転車の乗り方に及ぼす影響について理解できるようにする。また、自転車を安全に利用するために、交通ルールを守り、交通マナーを実践しなければならぬことを理解できるようにする。	加齢による身体機能の変化に応じて自動車を安全に運転するために必要な技能及び知識を習得できるようにする。また、自動車等の基本的な特性等を学ぶことにより、歩行者等として自動車等の動きを予測し、危険を回避して安全に道路を通行することができるようにする。	加齢による身体機能の変化が行動に及ぼす影響や、家族等が日頃から交通安全意識を高めるような話題を提供したり高齢者が外出する場合に声かけを行うことなどが大切であることを理解できるようにする。
内容	①交通ルールの遵守 ②加齢に伴う身体機能の変化が歩行に及ぼす影響 ③安全に道路を通行するために習得すべき事項 ④道路横断時等の安全確認 ⑤夕暮れ・夜間における明るい色の服装や反射材の着用	①交通ルールの遵守及び交通マナーの実践並びに安全確認 ②加齢に伴う身体機能の変化が自転車の走行に及ぼす影響 ③安全に自転車に乗るために習得すべき事項 ④道路横断時等の安全確認 ⑤夕暮れ・夜間における明るい色の服装や反射材の着用	①交通ルールの遵守と安全確認 ②シートベルトの正しい着用 ③運転適性指導及び運転技能指導等の実施 ④高齢運転者標識（高齢運転者マーク） ⑤運転免許証の自主返納の検討 ⑥自動車等と歩行者等との間で発生した交通事故事例の学習	①高齢歩行者が安全に道路を通行するために必要な事項 ②高齢者が安全に自転車を利用するために必要な事項 ③高齢の運転者の安全を確保するために必要な事項 ④高齢者が交通事故のあった場合の措置